

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和4年度 第2回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)		参画協働課		
開催日時		令和5年1月20日(金) 午後7時から午後8時半		
開催場所		川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真理、西原千佳子、横谷弘務、久保田啓子、細見美咲、大西僚、京極光泰、名畑龍史、丸谷満、山中彩永		
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコセンター長、吉尾豊スタッフ		
	事務局	石田総合政策部長、金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、 岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	- 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査結果等について</p> <p>(2) 川西市参画と協働のまちづくりに関する NPO 法人、市民公益活動団体アンケート調査結果等について</p> <p>(3) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画 計画全体像、めざす状態について</p> <p>3 閉 会</p>		

19:00～

1 開会

○事務局

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。

なお、本日は、委員が1名欠席とのご連絡をもらっている。出席委員は、定数13名中12名。

本日は、川西市市民活動センター長である三井ハルコ氏、市民活動担当スタッフの吉尾豊氏が、オブザーバーとして、出席いただいている。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

○岩崎会長

先程、事務局から報告いただいたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

それでは、議事に入る。その前に、市の第6次総合計画の策定状況について事務局から説明をいただきたい。

○事務局

参考資料 説明

○岩崎会長

総合計画は市の最上位計画となるが、現在、基本姿勢が固まっている。参画と協働のまちづくり推進計画など個別計画は、総合計画ができてからではなく、歩調を合わせながら作成していくことになる。

推進計画については、昨年度に市長から計画策定について諮問いただき、第2期計画

の振り返りを行い、今年度の第1回では市民アンケートについて審議した。今回アンケートの結果を報告いただき、現状や課題等も見えてくる。今年7月の答申に向け、第3期の計画策定の審議に入っていく段階である。

それでは議事に入ります。

事務局から本日の資料について説明をいただきたい。

○事務局

資料1～5 説明

2 議事(1) 川西市参画と協働のまちづくりに関する市民アンケート調査結果等について

2 議事(2) 川西市参画と協働のまちづくりに関するNPO法人、市民公益活動団体アンケート調査結果等について

2 議事(3) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画 計画全体像、めざす状態について

○岩崎会長

それでは、ただいま事務局から説明があったとおり、(3)の「めざす状態」については、意見が出しやすいように後ほど2グループに分けて進めたい。

まずは(1)市民アンケート調査結果等について、(2)NPO法人、市民公益活動団体アンケート調査結果等について、ご意見やご質問をいただきたい。

< 委員からの発言 >

○横谷委員

自治会やコミュニティ単位の活動をやっているが、市全体のアンケートをとる時に自治会役員のなり手がなぜ少ないのか、自治会の役員の苦勞、活動内容が出てないのではないか。

○岩崎会長

自治会の役員のご苦勞がこのアンケートから出てないのではないか。負担に感じたこと、難しかったことなど一般の人の話は出てるが、その中で特に自治会の役員、あるいはコミュニティの役員がどのようにご苦勞されているかというのが出てないと。そのあたりいかがだろうか。

○事務局

委員のお話のとおり、自治会やコミュニティの役員の方々には大きな負担があると思う。

今回、市民にアンケートをとった中では、負担に感じられていることもあったが、活動に参加してみると負担はなかったという声も多くあった。

会長であるとか役員の方々には大きな負担であろうと想像できるが、今回自治会などの活動に参加するにあたって、大変だと思われる方がいるのではないかと思う。ただ、参加したところさほど負担ではなかったということも考えられると思う。

委員が言われた、「役員の負担」というのはこちらでは、はかれていないが、まず、自治会やコミュニティの活動に参加していただくためにどうするか、そこから役員の活動をしていただく方も増えていくのではないかと思っている。

○岩崎会長

まず、参加する機会をどのように設けていけば良いのかというところを明らかにするアンケートということでよいかと思う。役員の方の負担とかいう話は全体としてある。

今回は「協働の芽」というのがキーワードであった。発想は良いがあまりいい回答は出てこなかった。ひとつはコロナ禍であったこともあるのかと思う。

○山中委員

このアンケートの項目を見て、めざす状態として、コミュニティ活動が活発であったり自治会参加意欲があがる、近所の団結力があるまちをめざしているのかと思うが、合っているか。

○岩崎会長

めざす状態をこれから検討しようとするところだが、そういうことです。

○事務局

川西市では地域分権として、コミュニティという組織を各小学校区で組織し、地域活動の中心を担っていただくということをしている。そのあたりは元気になっていただくということが望むところだが、それが全てではなく色々な個人での活動も活発になっていき、それが地域の活動等と結びついていけばより素晴らしいものになるのではないかと思う。そういう地域というところでベースにあるのではと考えている。

○大西委員

資料5 総合計画があり、めざす状態があり、推進計画の案を考えて行きましょうというところで、総合計画が骨子で出ているが、そこから変わってくると、元が変わるのでその後を考えておいても打つ手や流れがずれてくるかと思うが、基本総合計画として骨子は変わらないものか。

○事務局

もちろんお話されたことはあるかと思うが、今現在の進捗で言いますと、基本姿勢というスタンスは固まっていると聞いている。あとの各分野であったり基本計画は資料をお渡ししているところから変わる可能性はあるということだが、決まっているこの基本姿勢に基づいて考えて行くということです。

参画と協働のまちづくりという意味で言うと、総合計画の方でも色々なかたちで皆で作っていくように取り組んでいるので、参画とか協働というようなスタンスについては変わらないものだと考えている。よって、資料通りの基本構想になるかというところ、そこはまだ明確に言えない状況です。

○岩崎会長

少なくとも、基本姿勢については変わらないということ。

総合計画から基本構想、基本計画、実施計画を順に作っていくわけだが、基本構想、基本計画の中で分野に分かれている。この分野別に分かれていると、それぞれの分野の個別の計画に結びついていく。そうすると、役所の組織はそれぞれの課単位、部単位に組織が出来ているため、計画もその単位で考えることが多くなる。そうすると、自分たちの仕事をやればいいではないかとなってしまふ、その先には住民がいて、なおかつ住民と市と一緒にやらなければいけないはずなのに、市だけで実行してしまったり、あるいは住民に丸投げをしてしまったりということも起こりかねない。それを、参画と協働という考え方でそれぞれの分野、別のところも共通して横串を刺すような行政と市民との関係をこの総合計画に基づいて作っていく。それが参画と協働の推進計画になるかと思う。

分野の中には当然橋を作るとか学校を作るとかいうのもあるだろうが、実際、学校を作るときに市民の意見をどう反映させるのか、学校を維持するためにはどうするかというときに、参画と協働の推進計画を参考にすることにより、よりよいやり方をそれぞれの課が気づいてくれる。その様な計画をここでは作る必要があるのではと思う。

○名畑委員

アンケート項目でひとつ質問させていただきたい。コミュニティ活動に参加しにくい理由を聞いている（概要の5ページ 調査結果2）が、「自治会に加入していない」という選択肢が全世代において上位にきている。質問する側として、「自治会に加入していない」を選択肢に設けた意図はなにか。

自治会に加入していないのにそれ以外の公的な活動に出るのはひきめを感じるのではないかと思い、選択肢に設けたのか。自治会に加入していないから必要な情報を得られないということなのか、「自治会に加入していない」という選択肢の持つ意味が広く、質問した時はどういう意図で聞いたのか。それによって次に打つ手を考えるときに変わってくると思う。

単純に考えると、自治会に加入させましようとなってしまう。そうかもしれないが、そうではないのであれば、必要な情報が届いてない等、もう少し分かるといいと思う。

○事務局

この選択肢を設けた意図だが、コミュニティ等の活動は自治会に加入しているしていないに関係ないものとなっている。しかし、加入していないから関係ないという考え方があるのではないかと思う。

自治会に加入している人たちが地域活動等をするものだという考え方があるのではないかと思う。自治会に加入していないことによりコミュニティの情報も入りにくく、そもそも参加していませんという回答が考えられるかと思い選択肢として設けました。

○岩崎会長

自治会に加入していることを前提にしたいというのものもあるかと思う。

自治会の加入は世帯単位、コミュニティは基本的にそこに住んでいる人、個人全部という違いがある。ある意味建前がある。

○事務局

補足ですが、回答は複数回答になっていて、今単純回答しか出していない。「自治会に加入していない」と回答した人が他にどの選択肢をとっているかクロスを一度とり、分析するのも手だと思う。

○名畑委員

相関が分かればラッキーである。自治会に加入していない人はやはり活動にも参加していないとか。

○細見委員

回答された方の背景を確認させていただきたい。有効回答数が825名とあり、各設問における年代の割合みたいな資料が見つからなかったため、設問から算出しようとしたところ、各設問で有効回答数が一致しなかった。例えば地域のことに興味があるのかという設問では、総数表記は825名となっているが実際の有効回答数は789名であった。これは無回答者を差し引いた正確な表記になっていないということか。

○事務局

無回答の方をこの年代別には入れていない表記になっている。

○丸谷委員

基本構想骨子案の2ページにある「わたしたちが大切にしたい思い4つの基本姿勢」にある、「わたしたち」というのは川西市民全体を指しているのか、それとも構想を実現するために動いている方の思いなのか確認しておきたい。

「わたしたち」というのは具体的に誰を指しているのかと思いお聞きした。

○事務局

ここでいう「わたしたち」というのは市民と捉えていただきたい。

総合計画をもとにまちづくりを進めていく主体ととらえていただいて結構かと思う。

○丸谷委員

まちの未来像というものは、構成するキーワードは川西ミーティングなど他の実施予定の会議等から作成する予定であるという出所が分かるが、わたしたちが大切にしたい思いは、何か市民と関わりがある出所が過去にあったということか。

○事務局

総合計画にて、わたしたちが大切にしたい思いをとりまとめている。総合計画においても同様に審議会を開催しており、その審議会において総合計画策定にあたっての市民の意識調査と称したアンケートを行っている。それを元に4つの基本姿勢にした。

○京極委員

資料1の5ページ分析として参加できないというところで、本来の回答1番は「時間がない」、「自治会に加入していない」、その次、注目として「どのような活動があるのか分からない」、一つ飛ばして「参加の仕方が分からない」を注目しているが、時間がないという回答が多いのであれば時間がないのをどう解決すればよいのかを考えるべきではないかと思う。

市の認識として、時間がないというのは仕方ないとして捉えているのか、認識を確認しておきたい。

○事務局

確かに「時間がない」が1番多い回答となっている。

なぜ1番多い回答の「時間が無い」ではなく3番目等に注目しているのかというと、時間がないというのは仕事があつたりプライベートの時間があつたり、地域活動よりも優先すべきことがあつたり、時間がないというのもどれくらいなのかというのも人それぞれであろうかと思う。ここに向けて取り組むことは、難しいところがあるのではないかと思う。

どのような活動があるのか分からないとか、参加の仕方が分からないという部分については、情報の届け方や案内の仕方等、比較的とりくみ易いところではないかというところで注目した。

○京極委員

根本的な基礎的な考え方として、時間がないといった意識をもってもらわないようにしないといけないと思った。

3番目のどのような活動があるのか分からないことを解決させたい。8ページを見ると29歳以下から60歳代まで時間がない、70歳代から体力的な負担が目立っている、体力的な話をされると仕方ない。ということは29歳以下から80歳代まで仕方がないで済ませてしまうことになる。体力的な面で負担を感じる、いやそんなことないですよと言ってあげないといけない。時間がないとおっしゃる方にも、少しの時間でも参加できることもありますよというのが、寄り添っていかないといけないものであって、さらにそういった方々を引き込まないといけないと思う。どうしようもないというのは、根本的な解決にはつながらないのではと感じた。

○事務局

コミュニティや自治会の活動に参加するというのは、わずかな時間でも大丈夫だということなどをどのように出していけるのかを考えて行かないといけない。

○岩崎会長

やってみたら楽しかったと思わせないといけないし、近くにやってる人が大変負担に思ってる人がいると、自分はやりたくないと思ってしまう。そこをどういう風に伝えるか。地域活動の楽しさをどのように伝えるか。

○横谷委員

先ほどのところ、わたしたち市民が大切にしたいというように「市民」を入れて分かりやすくしてもらいたい。

○事務局

担当所管に伝えます。

○横谷委員

コミュニティとしては、参加すれば楽しいということ子どもを中心にして色々アイデアを出している。

新しくアイデアを出しているのは、子どもの算数検定を受けるにあたって、遠方に行かなければいけない。それを地域の会館で実施をしたいということで、小学校、中学校に相談した。そしてその団体に申込をし、コミュニティとして受験ができる体制を今整えている。募集人数30人に対してすでに30人に達している。楽しいと思える、参加したいと思えるアイデアを出してやっているの、色んな意味で関心をもっていただきたいと思う。

○岩崎会長

行事や参加の機会をいかに伝えるか、いかにひっぱってきて楽しかった。次、こういうことをやってみようと思わせるか。そのためにコミュニティはどのような活動をするべきか。そして、市はそれに対してどういう支援をしていくかというのを詰めていこうかというのが今後の推進計画になる。

○岩崎会長

それではふたつのグループに分かれていただきたい。Aグループは、田中副会長、Bグループは、藤本副会長に進行役になっていただく。アンケートの結果を基に「めざす状態について」について30分話し合ってください。その後5分間でまとめ、各グループの発表を3分をお願いしたい。

本日の話し合いは、より多くの意見を出し合い、次回の推進会議で、第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画がめざす状態を決めていきたいと思う。

○グループに分かれて話し合い

主な意見

Bグループ

みんなが参加しているという事実が大切に感じる。そのためにも参加しやすい環境づくりが大切。大人になっても友達ができるような人とのつながりのあるまちになればいい。

過程に自分が関わったものには、愛着がわく。そのためにも、常に関われる仕組みをつくるのが大切。他市でもアプリを活用して、アイデアや意見を簡単に求められるようにしているところもある。

昔は、調味料など足りないものを貸しあえる関わりがあった。そんなあたたかいつながりがあることが安心につながるのではないかと感じる。

川西市らしいずっと続いていくようなイベントがほしい。今から始めても継続すれば伝統に変わっていくものもあると思う。

Aグループ

気づいたら参加していたといった状態がいいのではないかと感じる。

地域活動というと、かたいイメージやクリーンアップ活動などと思われがちであるため、そうでないことも伝えていくのがいいのではないか。

もっと楽しみながらイベントに参加できたら、若い世代にも伝えられるのではないかと思う。若い世代の気持ちをつかんでいきたい。

親は子を守る。子育てをしているときは、一番大変なとき、少しでも気持ちが楽になるような企画があればいい。

自分が子どもを守ると思っていたが、ご近所の方々が見守ってくれていた。ありがたかった。なんて、あたたかいまちなんだろうと感じた。

いいものは口コミでも広がる、簡単なポスターでも人は集まる。

○各グループの発表

OBグループ委員が発表

川西市がどのような状態だったらよいかという話の中でいくつか意見が出た。最初に出たのはみんなが参加すること。これはアンケート結果にもあったが、みんなが自分事として捉えない、参加しないとしんどい。皆が参加しようと思うとつながりが既にある状態でないと、参画しにくい。何かつながりのあるまちが理想的である。

さらにそこからの発展ですが、つながりがあるというところで、大人になっても新しい友達が出来るエリア、まちは素敵である。子どもの時は学校の友達とか出来やすいが、大人になるとなかなか新しい友達が出来ないので、つながりや皆が参加できるまちは良いという話をした。

少し違うところでは、川西市の知名度があまりないため、川西市の知名度をあげたい

と話をした。しかしこれは広告を多くすることで川西の知名度をあげるのではなく、自分たちで参画した結果、市民の様々な意見が実際に形になると、成功体験となり、今後参加しやすくなる。実績があることで活動が活発にあることで有名になる。すると、市民参画型の有名なまちとして知名度をあげれると話をした。

最後に、つながりのあるまちについてですが、仕事や学校の関係で川西を出て行く人も多くなることは避けられないが、色々な形で戻ってくるまちもつながりのあるまちではないかと話をした。戻るきっかけがあると戻りやすいことから、夏祭りなどがあれば良いという話もした。何か市のイベントがあれば戻りやすいのではないかとというところで源氏まつりがワードとして出た。源氏まつりを一部参加型とすると、現在の源氏まつりよりも参加する人が増えるのでは。では、どうすれば参加するかというところで、コスプレ行列とかどうかとの意見が上がった。

以上のように、みんなが参加してつながりがあるまちというのがめざすべき姿ではないかという話をした。

OA グループ委員が発表

めざす状態についてとすることで話合った。

キーワードを、気づいたら参加していたまちづくりの一員とし、それに対して肉付けを行った。

地域活動に興味あるかと話をしたときに、構えてしまう人が多いのは言葉のイメージがあるのではと意見があがった。

どの様なことが地域活動なのか、地域活動の活動内容が何も分からない状態でその言葉だけを聞いてしまうと、構えてしまうことがひとつの問題なのではないかと意見があがった。

しかし、アンケートを見ると、実際地域の輪番制等でやってみるとよかったという意見や、B班でも話にあがった、大人になっても友達ができました。近所つきあいが広がった。さらには異業種の交流もできた。同学年の子どもの時の友達だけではなく、年上や年下とも新しい出会いが生まれたとあった。

さらに、意外と若い世代に近所つきあいが広がってよかったという回答が多かったの

がアンケートから捉えられた。これを逃す手はないのではないかと思います。

結局、アンケート1つ目の質問での「地域に関心がありますか」に集約されてると考え、注目した。

年代別に見ると、29歳以下、独身世代が全く興味がない。しかし、30歳代で一気に上がっている。80%の方がどちらかという興味があると回答している。そして興味深いところで40歳代50歳代となるとまた下がっている。

30歳代では家庭のこともあり、近所つきあいしておかないといけないという気持ちが一気に上がるが、徐々にクールダウンしていく。そこをなんとかつかみたい。

それにははずせないのが子育てに関する支援である。川西市の子育てに関する支援をもっと知名度を上げ、皆に分かってもらうべき。それを今集中してやるべきではないかと話をした。

結局、我々ののぞむまちづくりとしては、30歳代に向けて、みんな気づいたら参加してた。参加するとおもしろかったと言えるのがめざす状態だと話をした。

3 閉会

○岩崎会長

2グループの意見は事務局がまとめて、次回はそれをベースにアンケート結果をさらに深掘りした結果と共に、のぞむべき状態についても一度議論をしていく。

のぞむべき状態に近づくためのキーワードとして子育てがあがった。川西は住宅都市であり、大きな岐路にさしかかっている。住み替えの1番の売りは子育てができるである。すると、空き家対策と参画と協働がそこでリンクする。

今日の冒頭であった分野別の計画を横につなぐ参画と協働の推進計画というイメージを具体的にやっていきたいと思う。

委員から何もなければ、進行を事務局にお返ししたい。

○事務局

本日皆様に確認いただいた、市民、NPO法人、市民公益活動団体のアンケート結果等をホームページでの公表準備を進める。

次回の推進会議は、2月に開催させていただきたい。

(終了)